

# DJ Magazine 1月号 (2018)

ドキュメンタリージャパン

vol.23 2017.12.20

映像制作会社ドキュメンタリー  
ジャパンが今月お届けするテレビ  
番組や映画のお知らせです。

1  
Topics

## THE 鮨

～伝説の職人・藤本繁蔵(仮)～

放送予定:NHK-BSプレミアム/1月17日(水)午後9:00～10:30



今や世界共通語となった「SUSHI」。江戸前のファーストフードに過ぎなかった鮨は、戦後一人の天才職人によって世界の美食家たちを魅了する料理に生まれ変わった。その天才職人・藤本繁蔵の謎に包まれた実像を、彼の鮨のファンだった父の思いに導かれるように、歌舞伎役者・中村芝翫が紐解いていく。



つぶがみき  
製作スタッフの

藤本繁蔵の資料は驚くほど少なく、関係者を訪ね歩く取材を続けました。普段はマスコミに出ない高級鮨屋でも「藤本さんなら特別に」という店が多く、伝説の職人の偉大さを感じる日々でした。彼が遺した芸術的な鮨の数々をご堪能ください!

ディレクター 山本真弘

2  
Topics

## 少女が神になるとき

～ネパールの祈りとともに～

放送予定:NHK-BS1/1月2日(火)午後7:00～7:50、8:00～8:50



つぶがみき  
製作スタッフの

企画の発案から4年。ネパールの滞在は50日。編集は約2ヶ月。これまでにない条件の中での制作であった。8年に1度しか行われない少女神「クマリ」の交代。すごいものを見た気がした。そしてなんともいってもネパールは美女が勢ぞろい!年明けからお得感満載です。

ディレクター 浅野麻由

一万人近い死者を出したネパール大地震。震災から2年経った現在も、復興は進んでいない。そうした国の状況下で、毎年数千人を越える人々の声を聞き続ける少女がいる。クマリと呼ばれる生き神だ。クマリは、未来を予言し人々の願いを適え災厄から守るとされ、代々「国の象徴」と崇拝されてきた。今年、8年ぶりにクマリが交代し、新たに神となる少女が選ばれた。番組では人々のクマリへの祈りを通して、ネパールの今を読み解く。

3  
Topics

## 2018年正月三が日に

放送・再放送の番組はこちら

「北斎ミステリー～幕末美術秘話 もう一人の北斎を追え～」

放送予定:MXテレビ/1月1日(月)午後2:00～3:54

BS11/1月3日(水)午後9:00～10:54

「SWITCHインタビュー達人達～古田新太×古屋雄作」

放送予定:NHK-Eテレ/1月2日(火)

午前2:30～3:30(※1日深夜)

「SWITCHインタビュー達人達～松任谷由実×坂東玉三郎」

放送予定:NHK-Eテレ/1月2日(火)

午後2:30～3:29

「“青い黄金”を追え!～一攫千金のデニムハンター～」

NHK-BS1/1月3日(水・祝)

午前11:00～11:49



4  
Topics

## 世界を変える清盛脳

～京都・神戸・広島で再発見～(仮)

放送予定:広島テレビのみ/2018年1月20日(土)※放送時間未定

2018年は平清盛生誕900年にあたる。この節目に今一度平清盛にスポットを当て、3人の旅人が平家ゆかりの地を訪ねる。時空を超えて清盛と対話する旅人は、それぞれ現代に通用するキーワードを導き出す…。



# Special TOKYO DOCS 2017 リポート !!

2017年11月5日～8日開催

自ら権利を持って国際共同制作や海外販売を行おうと開かれる国際会議。

今年はネット大手 Yahoo!、VICE、テンセント、BILIBILI（中国）等が参加したり、VR企画も実現する等して熱いフェスとなった。



## 1 ▶ 受賞コメント プロデューサー煙草谷有希子

アジアの制作者と組む Colors of Asia というプロジェクトで、フィリピンの若手たちと一緒に、競技ダンスを通して自分の未来を切り開こうとする希望に満ちた子供たちの物語を発表しました。嬉しいことに奨励賞をいただき、来年の放送実現を目指します。



「東京クルド」

## 2 ▶ 受賞コメント ディレクター日向史有

3年間、通らなかった企画。それが、今回のトルコ系クルド人をテーマにした作品です。実現させてくれた皆様への感謝と共に、出演してくれたオザンを誇りに思います。TokyoDocs での上映を機に、多くの人々に見てもらえるよう、作品を広げていきたい。



「私の小さなダンスシューズ」

弊社は4作品で参加した。フィリピンチームと共に煙草谷プロデューサーがプレゼンした「私の小さなダンスシューズ」が受賞し賞金10万円受け取る。また、今年から新しく開設された若い作り手対象の「ショートドキュメンタリーショーケース」で、日向ディレクターが制作した「東京クルド」がなんと、優秀作品トップ3本に選ばれ20万円の賞金も獲得した。日本のクルド難民は、テレビで取り上げられにくい背景があった。「撮りたい」という作り手の強い意志がこのTOKYO DOCSで結実し、評価されたことを光栄に思う。実は私は、実行委員としてショーケースの企画運営に責任を負ったが、局からも喜んでいただき、こうした場づくりの意義を大いに実感した。(本木敦子)

## 【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリージャパンのスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～

### 第17回

ディレクター 小野さやか

## ドキュメンタリーは”人を愛すること”である。

対象者のことを考えると自分の生活に影響がでる。好きと言った本は読むし、好きな音楽やアーティストに想いを馳せる。その人に少しでも好意的に思われたくて心の奥はいっぱい。しかし、それは今回の映画『恋とボルバキア』に限ったことで、テーマが変わるとまたうつろいゆきます。

バトンを渡す相手

⇒プロデューサー 奥村浩さん

今回はDJの鬼才・奥村浩さんへバトンを渡します。



## 制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です！  
詳細はドキュメンタリージャパンのHPまで。

## 編集後記

最近までずっと名古屋で仕事をしていたのですが、そこではまったのが“スナック通い”。きっかけは、名古屋在住の知人と10年ぶりに再会し、飲みに行ったこと。それが彼の行きつけのカラオケスナックだったのです。気づけば泥酔。ナント見知らぬおじちゃん達とカラオケで大合唱していました。以来、スナック通いが病みつきに。しかし、1つだけ解せないのが、毎回伝票に書かれる金額の0が一桁多いこと。「これはおかしいやろ?」「ああ、間違った間違った」というやりとりが2、3度ありました。これが酔客相手の夜の店のやり口かと気づいたこの頃です。酔い過ぎにはご注意ください。

(T.N)

Design by HARIMA koutarou

株式会社ドキュメンタリージャパン

HP: <http://www.documentaryjapan.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目12番20号 和晃ビル1F TEL:03-5570-3551 FAX:03-5570-3550